

藁科地域小中一貫校整備事業
公募型プロポーザル
技術資料・技術提案書の評価基準

【第1次審査】

| 技術資料の評価基準 | | | | | |
|-----------|-----|---|----|---------|-----|
| 判断基準 | | | | 評価のウェイト | |
| 1 業務の実施方針 | (1) | 整備方針や設計の与条件に対して、事業目的と事業内容を理解し、創造力ある提案が期待できる場合に優位に評価する。 | 50 | | |
| | (2) | コスト管理に対する考え方（目標建設費を守るための方策等）に対して、配慮する提案があった場合に優位に評価する。 | 30 | | |
| | | | | 小計 | 80 |
| 2 業務実績 | (1) | 管理（総括）技術者及び各担当技術者（意匠、構造、電気、機械）について、新築又は増築で、1棟の延床面積（増築の場合は増築部分の面積に限る。）が900㎡以上の木造建築物の業務実績がある。 | 15 | | |
| | (2) | 管理（総括）技術者及び各担当技術者（意匠、構造、電気、機械）について、公立学校の校舎（複合施設を含む。）の業務実績がある。 | 5 | | |
| | | | | 小計 | 20 |
| | | | | 計 | 100 |

※第1次審査として、技術提案書の提出者を原則として上位7者程度とする。

※順位は、①合計点、②評価のウェイトが高い項目の点数順とする。

【第2次審査】

| 技術提案書の評価基準 | | | |
|--|-----|--|---------|
| 判断基準 | | | 評価のウェイト |
| <p>課題に対する技術提案 (評価にあたっては技術提案書の内容及びヒアリングの結果により総合的判断を行う。)</p> | 課題1 | <p>オクシズ材の利用と木材の見せ方について 藁科地域の風土や周辺環境と調和し、児童生徒を始め地域住民にとって木の温もりが感じられ、長きに渡り愛着を持てる耐久性・防汚性を考慮した木造校舎、藁科地域の地場産業の魅力や景観形成に寄与し、循環型経済の構築を通じて脱炭素社会への貢献を体感できる建築計画の提案があった場合に優位に評価する。</p> | 30 |
| | 課題2 | <p>将来の変容性について 将来の児童生徒数、学級変動にも柔軟に対応できるよう、諸室の用途転用や間仕切壁の変更が容易に行えるレイアウトや区画、室内環境や構成材の適切な維持管理及び更新を見据え、ライフサイクルコストを考慮した長く使い続けることができる建築計画の提案があった場合に優位に評価する。</p> | 30 |
| | 課題3 | <p>環境教育の取り組みについて 藁科地域の気候風土に即した自然エネルギーの活用や木材利用、校内緑化等及び校舎の高断熱化や高効率照明の導入等の省エネルギー化を検討し、地球環境と調和のとれた学校づくりを目指すとともに、省エネルギーや環境配慮等の工夫が見える化し、児童生徒や施設利用者が環境行動を行い、環境教育の場として活用できる提案があった場合に優位に評価する。また、新校舎は環境負荷等の低減に配慮し、ZEB Ready以上に適合した建築計画であり、2050年のカーボンニュートラルの実現に向け、将来 ZEB に対応できる施設とする提案があった場合に優位に評価する。</p> | 30 |
| | 任意 | <p>上記以外に本事業に有益な提案 (工期短縮、工事コストダウン要素等)</p> | 10 |
| | | | 計 100 |

※第2次(最終)審査においては、第1次審査の評価を考慮しない。